

平成 24 年度第 2 回石神井公園ふるさと文化館運営懇談会会議の概要

日時	平成 25 年 3 月 27 日（水） 10:10～12:00
場所	石神井公園ふるさと文化館 多目的会議室
出席者	委員 11 名
議事等	1 文化・生涯学習課長挨拶 2 議事 （1）平成 24 年度事業について（平成 25 年 2 月 28 日現在） （2）平成 25 年度特別展等について （3）文化芸術振興施策の今後のあり方について 3 その他
傍聴者	なし
配布資料	1. 平成 24 年度練馬区立石神井公園ふるさと文化館運営懇談会委員名簿 2. 平成 24 年度事業について（平成 25 年 2 月 28 日現在） 3. 平成 25 年度歳出予算概要について 4. 平成 25 年度石神井公園ふるさと文化館主要事業（案） 5. 文化芸術振興施策の今後のあり方について 6. 石神井公園ふるさと文化館入館者数推移（平成 25 年 2 月 28 日現在） 7. 石神井公園ふるさと文化館ニュース No.9

会議の概要

1 文化・生涯学習課長挨拶

文化・生涯学習課長

おはようございます。本日は雨でお寒い中、文化館まで足を運んでいただきありがとうございます。昨年 4 月に区の大きな組織改正があり、この会でもご討議いただいたとおり、区長部局の文化国際課が所管しておりました文化センター等の舞台演劇事業関係、あるいは街中への彫刻設置等の事業と、教育委員会が所管しておりました生涯学習課の事業であるふるさと文化館、美術館等の博物館関係を一手に引き受けて発足をしてございます。早いもので 1 年がたちましたが、区の文化芸術、生涯学習を今後どのように展開していくのか本格的な検討を進めていく時期でもございます。そういった中で本日の議題でも触れておりますが、今後のあり方について、この館にも関係してくることもございます。そういったことを進めさせていただいている状況でございます。また博物館におきましても博物館法の改正がありまして、そういった中でやっとその法律の趣旨に基づいて博物館の運営の望ましい基準が国のほうから示されたり、

あるいはそういった博物館法に基づいて新たな博物館の動きと申しましょうか文学館・記念館・郷土館等の垣根が取り払われたような事業が行われてきている状況があります。一端を言えば昨年度は世田谷区を皮切りに当館でも行いましたが文学館で鉄腕アトムの展覧会をやる等、様々な事業展開が行われております。そういった社会背景や法律の変化等にもないながら、当館もぜひ今後も大勢の方々に愛される館であってほしいと思っております。そういった意味でも今日様々なご意見を伺いし、少しでも良くしていきたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

事務局 [改選委員紹介、委嘱]

2 議事

座長 皆さんおはようございます。お忙しところお集まりくださりましてありがとうございます。せっかくの機会でございますので皆様の率直な意見を頂戴したいと思っております。先ほど事務局からもお話がありましたとおり、途中退席となる委員もいらっしゃいますので、議事の順番を変えさせていただきます。1番は平成25年度特別展等について、その後文化芸術振興施策の今後のあり方について、その後1番に戻り、その後に委員の皆様からの自由なご意見をいただきたいと思っております。

(1) 平成25年度特別展等について

事務局 (資料4、3の説明)

座長 25年度の新事業となります、ねりま手工芸公募展について補足的な説明がございませうか。

副座長 少しお時間をいただきます。これは長年、生涯学習の立場の皆さんとお話ししてきたのですが、我々が工芸作家展を立ち上げて18年。20年近くなります。練馬区民の中には物づくりをやっている方がいっぱいいらっしゃるはずなのです。こつこつとやっただけでどこかで見ていただきたいという気持ちがあってもそういう場所がなかなかありません。私のほうにも問い合わせがあり、どうしたら入れるのか、こんなことをやっているが作家展に出せるほどはやっていない、など聞きます。ご存知のように練馬区美術家協会では美術館で公募展を行っていますが、これは絵画がほとんどです。工芸は少しあるのですが、手工芸に関しては技術の高い力のある美術家協会からの作品があるのですが、一般の方はほとんどいない、と拝見して思いました。私どもも初めから手工芸作家連盟ではなくて手芸工芸の会でした。どこかの会に属してそれを売り込みたいということではなく、一人で研究してやっただけでその発表の場が無いところ、有名企業でやっているようなしっかりした方に入っただけで、練馬の手工芸はここまでできる、ということをやりたいと思いながらここまで来ました。し

かし今度は、一般的にやっている方の出せる場が無い、もう少し詳しい方に入っていただきたいという声がありました。いろいろな方面で相談しながら公募展という形でやってみたい、という長年の希望と思いで出てきたことです。課長さんから補足がありましたらお願いいたします。

課長 現在、美術館では美術の観点から区民美術展ということで公募展を開催しております。今年度も多くの作品が集まっており、美術の分野で区民の創作意欲をかき立てていきたいというところです。一方、工芸部門があるのですが、点数が少ない状況です。敷居が高いというご意見もございます。そういった意味でふるさと文化館の役割として美術館との役割分担をしながら文化技術分野の特に手工芸という、もの作りの分野で区民の方々の発表の場を作っていきたい、というのがこの館の設置の段階からありまして、4年目にしようやく形になるのかなと思っております。やり方につきましては具体的にはこれから決めていくと思いますが、一般区民の方から公募をして、手工芸連盟並びに伝統工芸会の皆様に技術的な審査も含めてやっていただいて、例えば区長賞であるとかそのような顕彰をしていきたい。ですから1回で終わるものではなく続けていながら区民の方々の継続的な創作意欲や掘りおこし等も含めてやっていきたいと思っております。新たに来年度から、徐々に作っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

座長 やって見ないと手工芸というのがどのあたりまでいうのか、正直わかりにくいわけですが、かなり限定しているようにも思いますが。

副座長 それが難しいところですが、絵画などは別にしまして、もの作りならば良いのではないのでしょうか。ただ、できたものを組み立てるだけのものではなく、やはりゼロから自分で作り上げたものに限定する。また、団体で作ったものではなく、お一人おひとりが手作りをして、どこかで見てもらいたいという方が出せる場所がいいのでは。美術家協会と一緒にできると良いとも思いましたが、絵画が中心で手工芸はわからないと言われてまして、館としても、いろいろな分野が入るよりも手作りのものと絵画とを分けてやってはどうかという意見もあり、このような形となりました。一般公募で最初から多くの作品が集まるとは思っていないのですが、徐々に区民に広がっていったらありがたいと思っております。

座長 これからのことですから、より多くの方に周知徹底を図りたいが、スケジュールがタイトになっています。周知はどのような予定になっているのでしょうか。

事務局 周知につきましてはすでに最新のふるさと文化館ニュースやホームページに応募期間等を掲載しております。詳細は5月11日号区報にて、大枠は区民美術展にならったかたちでご案内します。募集チラシ等につきましては、実行委員会が立ち上がりましたら、チラシの内容や周知方法につきましても十分ご相談

していきたいと思います。

座長 先ほどもありましたが継続していくことで応募も増えていくと思いますが、ぜひジェイコムでも取り上げていただくと、非常に関心が高いと思います。練馬は非常にレベルが高い地区だと私も感じていますので。

委員 質問ですが、池袋の東京芸術劇場の地下1階にギャラリーがありまして、お面の面が30点ほど並んでおりまして非常に感激いたしました。作者のお住まいを聞きますと西大泉だとのことで、ぜひ練馬でやってくださいとお願いをいたしました。そういったものも入るのでしょうか。

副座長 ぜひ、面の先生他どんどん入っていただけることを希望しておりますので宣伝していただきたい。

座長 このあたりは今決めるのではなく、そのうちということになると思いますが、能面は手工芸の概念の中には入らないのでは。工芸ではなく芸術品なので。特別な面打師という専門職ですが、そういったものが入るとおもしろいですね。

副座長 現代工芸に限らず伝統工芸として、練馬の工芸文化ですのでやっている方がいればどうぞ広めていただければと思います。

座長 特別展と企画展についての質問その他がありましたらお願いいたします。一般的なことについてはまた時間を取りたいと思います。

委員 1点質問があります。主要事業の選択と決定の主体はどこにあるのでしょうか。

事務局 懇談会でのご意見を参考にしながら学芸員を中心に館で候補を挙げたうえで、区で決定しています。

委員 北原コレクションについては、あちらから話があったのでしょうか。それともこちらからの企画なのでしょうか。おもしろい企画だと思いますが。

事務局 以前懇談会委員の方から紹介もございまして、その中から学芸員の研究と合致する点も多く、事業として選考の対象とさせていただきました。

委員 質問2点とお願いが2点あります。1点は、北原コレクションと練馬の関係はどこにあるのでしょうか。2点目はこちらの館で部屋を借りまして文化センターの展示会をやっておりますが来年度はあるのでしょうか。また、2つのお願いといいますのは、1つはそこに加藤正世さんというセミ博士がいて、昨年もお願ひしたのですが、東大の博物館に遺品が全部入っています。その中継ぎをされたのが前小金井館長です。ぜひその展示と講演会をお願いしたい。昔の石神井というのは昆虫が多くいたのではないかと思います。コレクションの目玉の一つが標本類。これが結構目新しいものが出ているという話もありますしお願いしたい。2つめは、ここに本があるのですが「武州石神井邑油屋勝衛門」という練馬に広い土地を持った人物がいて、これを研究していたのが郷土史家の瓜生先生。いろいろ調べて本として完成させたのが、末代方の

旦那さんが去年出しております。これも練馬発の企画になりうるのではないかとと思いますが。

事務局 質問1についてですが、これは練馬との関係というより各世代の方が懐かしいと感じるような展示になるかと思えます。しかし練馬との関わりもあると良いとの意向もすりあわせながら進めていきます。また、企画展のご要望についてですが次々年度以降に向け実現可能かどうか検証しながら進めたいと思えます。練馬の商人ということもあり、そういったことも心得ながら事業展開していきたいと思いい資料を探したところ、かなり散逸しておりまして、実現は難しいかと思っております。

座長 質問は後程、全般的なものに合わせて行いますので、次の議事に進みたいと思えます。資料5、文化芸術振興施策の今後のあり方について説明をおねがいします。

課長 (資料5の説明)

座長 なかなか難しい問題がありますが、ご質問がありましたらどうぞ。すみませんが私から1点。日銀グランド跡地は文化館のサテライトという位置付けになるのでしょうか。

委員 質問は、ふるさと文化館のあり方についてですが、今度の指定管理者の制度が1年に迫った関係です。私はサポーターをしておりますが、今度の制度改革によって機動的な運営と柔軟な対応ができるとの話がありました。現場でやっている中で、そこでの声が運営に反映されているのか疑問もあり少し欲求不満がある訳ですが、指定管理者制度によって区民主体での運営を幅広くやっていくということができれば非常に良いと思えます。はたして意思決定、運営企画の決定をどのような仕組みでやっていくのか。1年間の準備期間を経てということですが、お聞きしたい。

課長 企画運営の意思決定ですが、基本的な流れは変わりません。館で企画を練って区に上げてという流れの区の部分が振興協会の理事長等にはかることとなります。運営の自由度をあげるというところでは、例えば今までですと5年後にこういうことをやりたい、となったとき区では1年ごとの予算がありますのでお約束ができないのですが、振興協会になった場合はもう少し強く約束ができるようになったり、図録等の販売に関しては現在原価販売していますが、値段をある程度自由に設定できたり、再投資できます。今は館で収入があっても区に入るかたちとなりますが、指定管理者ですと館での収入は館で使えることとなります。また、サポーター制度の中でいいますと、なかなか意見のすり合わせができていないのかなと感じましたが、これは運営の課題として、きちっとした受け止め方と、透明性を高めていかなければならないと思っておりますので、ここで劇的に変わるということではありませんが継続的に考えてまいりま

す。

副座長 指定管理者制度を大変心配しておりました。他で営利を目的とした会社が入り大変なことを感じたことがありました。今回はここを良く分かった方々で構成された文化振興協会が入るということでほっとしております。この館を、多くの意見を吸い上げて良い方向へ行かせたいとみなさん感じているところですのでよろしくお願いいたします。

委員 私は、指定管理者制度を図書館で見っていますが、移行しますと館で一生懸命企画を考えたり、プラスに働いているのではないかと思っています。区直轄ですと動きが良くないと感じます。

座長 組織で動くか人で動くかという言い方をしますと、結局人の動きが多少増える可能性があります、それが全てプラスになるとは限らないので難しい問題ですね。組織でやっていて決まったものしかないというよりは少しは弾力的に動くというプラスを高めてほしいと思います。

委員 先ほどの質問に関連しているのですが、まだ議事が進んでいない資料6の入場者数の推移がでていますが、サポーターとして見ますと、3年間やってきて入場者数が増えていない。人数を増やすにはどうしたらよいか真剣に考えていかなければならないと痛切に思っています。先ほど手工芸で新しい企画をやるということはかなり区民参加型でこの館を活用していこうということですので、もっと参加型の活用をしていかないと全国どこの博物館を見ましても、従来のやり方ですと行き詰まり、先細り状態になるのは目に見えています。区民がその館を必要とする、ただ教育ですとかの資料を展示するというのではなく、手工芸のような形の文化を作って練馬のイメージを高めていくという感じの企画を皆で考え盛り上げていくということが入館者を増やし、この文化館の位置付け、必要性を高めていくと思っています。これからいろいろな声を聴きながら文化館を運営していただきたいと思っています。

座長 議事に戻りまして、資料2と6の説明をお願いします。

事務局 (資料2、6の説明)

座長 24年度事業に対するご感想や、今後に向けてのご意見等ございましたらお願いいたします。

委員 本校では職場体験4名、教員の初任者研修でもお世話になりました。特別支援学級も毎年見学に来させていただいております。地元これだけ素晴らしい文化館があり、大いに活用させていただいてありがたいと感じています。一つ残念だったのは、本校の演劇部がいろいろ端で聞く昔話の中のどこかで一度紙芝居等をやらせていただこうとしていたのですが、なかなか日程が合わず実現できなかったということが心残りとなっています。また次年度以降、機会がありましたら演劇部のほうに声をかけていただければと思います。

- 座長 その他ご意見ご感想をお願いいたします。
- 委員 こういった場に参加させていただいて 2 回目になります。皆様のご意見を聞きながら勉強させていただいておりますが、手工芸のほうはだいたいわかるのですがその他に関してはこれから勉強させていただきたいと思えます。
- 委員 かなりの活動をされているというのが率直な感想です。我々のほうでも取り上げて練馬区 90% をカバーしていますので宣伝広告等させていただきたいと思えます。一つお聞きしたいのは、サポーターの皆さんの活動は自主的な活動なのでしょうか。
- 委員 活動日等は希望制ですが、活動内容は来館者への案内・交流等の決められたものです。
- 委員 118 名ということですが毎年増えているのでしょうか。
- 委員 現在は募集していませんが、数が適切かどうか今後検討しなければいけないと思えます。サポーターの数はもっと増えてもいいと思っています。
- 座長 今度の企画展ですが、担当される学芸員が机上の空論ではなく実際資料を集めてきて一定期間借りてきて展示できるかどうか実現の可能性が問われるわけです。今まで非常に努力されて専門的な立場から見ても他では見られないような、すきまのようなところを深く掘り下げて素晴らしいと思うのですが、それでは練馬との関係というところでもう少しアクセントを利かせる工夫が欲しいと感じます。専門性が高すぎて一般来館者と合わなくなるのではという心配があります。計画されている「江戸東京の食文化」展に関連してですが、皆様ご存知でしょうか、ジェイコム時代の劇チャンネルで江戸の料理人という番組があります。1 時間番組で江戸時代を舞台に料理人が工夫して料理を作るという番組なのです。禅宗などから始まった江戸の「もどき料理」を時代劇としてやっておもしろいのですが、このような番組を見ている人にとってはこのテーマに興味を持つのではないかと思います。お願いしたいのは学芸員の方もジェイコムなどと協力する、または支援してもらえようことをしていただけるとおもしろいと思えます。こういったことは目で見ないとわからないし、見て興味を持つ。できればエン座さんにも協力していただきコラボしてもらうのはいかがでしょうか。これもとてもおもしろいなと思って期待をしております。
- 委員 もう一つ質問ですが、入館者数はほぼ練馬区の方ということでしょうか。
- 事務局 特別展の際にアンケートをとっていますが、区外の方、都外の方が 3 割くらいです。
- 委員 接客する中では、アトム展では、中華街までつながりましたから、横浜から来たという方であったり、いろいろ聞いておりますと世田谷や杉並等の近隣からも徐々に宣伝が効いてきて外から見に来られるという方も増えております。企画展などをやりますともっと遠方からも来ています。

座長 今中華街に引き寄せる話が多い中、逆にというのは素晴らしいですね。鉄道ですから逆だって有りうるわけです。今川越が小江戸に横浜の人を呼ぼうということを始めますが、鉄道ですから逆もいいわけですね。

委員 ずっとサポーターをやらせていただいています、ここで話し合っているいろいろなことがわかっているということも大切ですが、一般に来ているお客様にアンケートを取ってはいかがかと、開館当時から提案しています。企画展以外にも日常的にやったほうが良いのではと思っております。フィードバックは大切だと思います。状況を掴むためにも。サポーターの中の意見として以前よりお話ししております。

座長 それはなかなか難しい部分もありますが、これはむしろサポーターの方が感じたことや意見を定期的に収集してデータ化することを検討していただけたらと思います。

委員 それはすでにしておりまして、感じたことを提出するシステムになっております。来館者全員とお話できるわけではありませんので、年齢ですとか住まいなどはお聞きできません。日常来館される方へのアンケートは難しいでしょうか。

座長 アンケートは強制的にデータを取るんですが、いつ誰がどのように取るか。客観的に事実化するんです。専門的に言いますと、アンケートはデータを取る一つの方法で、いつやるか、その方法が適当なのかなど考える必要がありますし、もちろん費用もかかりますし組織的にも可能なのか。やれば必ず集計して公表するという責任も伴います。ですので、なかなか難しいところです。

委員 強制的にというものでなく、書きたい方が書けるといいうところもありますが。

座長 利用者の声のような形ですね。それですとデータにはできないので、サポーターさんのご意見を集めることと同じようになってしまいます。館のほうでも考えているとは思いますが。

委員 来館者アンケートに賛成ではあるのですが、なかなかアンケートに回答してくださる方は限られています。また、入館者情報を把握していくうえで、私たちサポーターがヒアリングしているわけですが、これは大切なことで、コミュニケーションを図ることが来館者に非常に喜ばれることですので、サポーターから入った情報とアンケートからの情報で多面的に館側で積極的に把握して、どういう対応をしていくかをやらなければいけないのですが、今は欠けています。ですので、委員の言われたことは非常に重要なことだと思います。座長がおっしゃったように、難しいけれども、多面的に館側でやっていくことが重要だと思います。

座長 まとめのかたちで館側をお願いします。

委員 演奏会を楽しみにしていても申し込んだら既にいっぱいです、と断られたの

ですが、これを見ますと参加者数が 74 になっているのですが募集が 40 で、どのような意味合いでしょうか。

事務局 ヴァイオリンの演奏会のことですね。場所が古民家ということで人数を 40 人にしぼって募集しましたが、当日いらして庭のほうからお聞きになっていた方々がおられました。

委員 それであれば、申込みの際にそのような案内が欲しかったです。

事務局 当日は古民家の見学が通常通り行われていましたので、庭で立ち止まって聞かれていた方ということです。お電話でそこまでのご案内はしておりませんでしたので申し訳ありませんでした。

委員 それでしたら行けば良かったですね。わかりました。

委員 私は館の入場者数にはあまりビクビクしないで、こんなに大勢入っている館はまずないです。杉並の郷土資料館は年間千人入れば上々と言っています。なぜここまで成功したかという、まずサポーター制度。自分が話しかけて人を呼んでくる、こういうことで自助努力が働いているのではないのでしょうか。合わせて、アトム展では市外から見えている方も多く、講演会もとても熱が入って質問もかなりありました。残念なのは、朝日新聞がたまたま今になってアトムのことを書き始めているということです。効果的には開催時に合わせて PR すると良かったと思います。サポーターの方へのお願いですが、皆さん実力がありまして、郷土史を勉強されている方も多く他の地区へ行って講演会をやったりしています。サポーター企画事業として古民家の歌う会だけでなく、展示の説明会をやっておりますので、日時とテーマと担当者名などを列挙して資料として残していただきたいと思います。

委員 こんなにたくさんの事業をやっているのを知らなかったんです。それは知る機会があったのにもかかわらずホームページなども見ていなかった為なのですが、同じような人のためにも、どうやって宣伝周知をするかが大きな問題だと思いますのでお願いいたします。これ程やっているところはないんじゃないかと思っておりますので。ふるさと文化館のミッションとして三つあったんですね。一つは区民参加、これは十分できていると思います。それから体験をしようということ。これも十分やられています。最後にもう一つ、博物館は古いものを集めるだけではなく、古いものから現代を見る或いは未来を見る、未来に向けたメッセージを伝えるということが一つの大きな役割だということでふるさと文化館が出来上がったと思いますが、未来に対するメッセージというのがあまり見えていない。その辺を今後の問題として、三本の矢の三本目として考えていただきたいと思います。

座長 私も立ち上がりから関わってきて、これだけよく事業をやられていて、いつも感動するのは何と言っても、続けているふれあい土曜事業。多岐にわたって

子供の目線になって一生懸命やっている。これをずっと続けてこられたというのが素晴らしいと思います。企画展については学芸員の方が大変な努力をしてらっしゃって、先ほどありました練馬との関わりはまたお願いはしたいと思います。アトムについては今日の朝日新聞にも載っていたのですが、アトムの生まれた日に関する記事で、練馬ではその日に文化センターで大きな会をやったんですが、宣伝不足でお客さんがあまり見えなかったんです。実は今日の朝日の話はそれと同じ話なんです。練馬はアニメの町などと言っているのですがアピールできていないというのが残念です。

委員 このサポーター制度は本当によくできているシステムで、いま文化センターで友の会制度というのをやっているんですが、どちらかというとジリ貧で、やはり区民のパワー、知恵を加味しないとこっちもさっちもいなくなっています。こちらの館は素晴らしいと思っております。

座長 今度、日銀跡地にサテライトができるという話がありましたが、今までも両方行く方がいるんですが、もっとはっきりした位置付けになって標識などをして行き来をしやすくするといいですね。もっと入館者を増やすということを考えると、利用頻度を上げていくことが大事で、もっと気軽に憩いの場、くつろぎの場として寄ろうという方がでてきてくださるととても良いと思います。ここは施設の規模に対してかなりいいです。飲食施設があるのは素晴らしいですね。外国なんかは昔から入館料もタダ同然で食事ができるカフェテリアがあるところが多くて、ここは最初からあり、ここをもっと利用してもらおうとか。後は立地の問題もあってアクセスが便利だとまた違うと思いますが、それでも着実に増えているのは本当に素晴らしいし、皆さんの努力のおかげだろうと思います。

委員 施設貸出状況ですが、稼働状況はいかがでしょう。

事務局 博物館施設の会議室ということで、館の事業で使わないときのみの貸出となっております。館としての全体の稼働状況は 8 割前後となっております。夜間利用については 25%~30%です。年々、少しずつ増えてはいますが貸出に関して稼働率は高くないです。

委員 文化・生涯学習課長への質問ですが、科学技術に関してもっとやってはどうかと提案しているのですが、科学技術は館の性質が違うので取り上げないとのこと。区民の方と今科学技術についてやっているのですが、例えば子供たちの科学実験をこういう場所がありますので夏休み等を利用してやってはどうかとか。ロボットの組み立てみたいなのを子供たちと一緒にやってはどうか。おもちゃの病院をやってはどうか。そんなことを提案しますと、それはちょっとどうか、ということでそのままになっています。サイエンスに関するものは、ここの性格は文化芸術なのでやらないということになりますか。

課長 ふるさと文化館のミッションとして、設立時に作った中では、練馬ではぐくまれてきた文化を大切にしていきたいというのが第一です。科学技術ということ言えば事業展開の中で扱えない部分ではないと思っておりますが、館の主体として地域に関わりのあるという部分では非常に少ないものです。科学館としての位置付けはこの館にはないですが、事業展開の中で扱っていくということです。現におもちゃの修理ですとか、これは団体がここを使って年に何回か開催しております。杉並のNPO法人です。館の主体としてやっていくのは今後の展開の中で考えていく事かと思っております。全体のことで一つ言わせていただきますと、ご意見を聞いていまして、館も4年目に入りまして開設当初とは職員も替わってきて良い面もあり、引き継ぎの不備等悪い面もあります。今後、課長の立場としましては、特に来年度、指定管理者の導入があり、サポーターの皆様にはお力をお借りしたいと思っておりますので、意見があがってくる仕組みになっていなければならないと思っております。

委員 去年のサポーターのお話の中で、炭素による年代測定の非常に面白い話がありました。これはこの館で取り上げて面白い科学技術の話だろうと思っております。

座長 まさに、考古学の技術の問題ですね。科学という言い方がサイエンスというよりも生活の中に生きている生活技術としていくなればふるさと文化館にも馴染みやすいのかなと思っております。新しいテクノロジーではなく、ふるさと文化の中にもある部分もあるかと思っております。先ほどご意見のありました来館者数等を定期的に把握していこうという点と、全体的なことで事務局からお願いいたします。

事務局 アンケートにつきましては、現在特別展の際に行っていますが、普段でもできるやり方等を内部でも検討したいと思っております。また、課題といたしまして25年度に向けて職員とサポーターの皆さんが、さらに風通しのいいかたちで協力しながら事業展開をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

座長 本日はお忙しい中ありがとうございました。皆さんの貴重な意見を検討して、取り上げていけるようにしていきたいと思っております。